

マイナ保険証への信頼は高まるか 一本化と導入促進に向けた対策は

いよいよ12月から、現行の紙やカードの保険証の新規発行が終わり、マイナンバーカードに紐付けられた「マイナ保険証」の本格運用が始まる。マイナンバーで保険証の情報を管理し、更に電子処方箋等の情報も一体化されれば、医療機関や薬局、患者にとって利便性が向上する筈だが、依然として運用への不安の声は消えない。又、機器導入は医療機関等にとって新たな費用負担にもなる。国はマイナ保険証の信頼性を高め、普及を促進する為に、どのような対策を高じているのだろうか。本格運用を前に、マイナ保険証の現状や普及対策等について、厚生労働省の担当者3氏に講演して頂いた。



講師(左から):厚生労働省医薬局総務課電子処方箋サービス推進室課長補佐 森田和仁氏、同保険局医療介護連携政策課保険データ企画室室長補佐 鈴木啓太氏、同保険局医療課課長補佐 富澤直嗣氏



第82回「日本の医療の未来を考える会」会場の様子(於・参議院議員会館)

挨拶



原田 義昭氏 「日本の医療の未来を考える会」最高顧問(元環境大臣、弁護士)

マイナ保険証は立派なシステムですが、普及率は未だ低いと聞いています。目的に沿って活用される様、**続きを読むには購読が必要です** ム積極的に利用して欲しいと思っています。今は衆議院選挙の最中で、経済政策や**詳しくはホームページをご覧ください** 全保障、福祉政策等の論戦が交わされていますが、国民の清い1票で立派な政権が発足する事を願っています。

